

# 2022年度決算書

## 目 次

- (1) 貸 借 対 照 表 . . . 1
- (2) 正味財産増減計算書 . . . 2
- (3) 正味財産増減計算書内訳表 . . . 4
- (4) 財務諸表に対する注記 . . . 6

一般財団法人 NHK 財 団  
(旧 一般財団法人 NHK サービスセンター)

貸借対照表  
(2023年3月31日現在)

(単位 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	2,187,104,095	2,279,719,636	△ 92,615,541
売掛金	1,512,671,355	1,344,445,829	168,225,526
未収金	88,915,122	14,488,535	74,426,587
有価証券	500,000,000	400,000,000	100,000,000
製品・商品	7,458,540	1,835,230	5,623,310
仕掛品	5,904,966	11,399,996	△ 5,495,030
原材料	6,226,978	6,608,114	△ 381,136
貯蔵品	1,555,500	1,555,500	0
前払費用	32,094,998	20,100,642	11,994,356
流動資産合計	4,341,931,554	4,080,153,482	261,778,072
2. 固定資産			
その他の固定資産			
建物	2,036,737	2,199,498	△ 162,761
建物附属設備	99,434,984	105,849,062	△ 6,414,078
機械	6	6	0
器具備品	35,717,050	44,303,562	△ 8,586,512
土地	1,184,964	1,184,964	0
リース資産	13,137,722	23,848,157	△ 10,710,435
ソフトウェア	32,219,345	35,186,180	△ 2,966,835
ソフトウェア仮勘定	119,654,001	0	119,654,001
商標権	1,024,200	1,138,000	△ 113,800
投資有価証券	1,799,957,980	1,900,000,000	△ 100,042,020
差入保証金	120,096,632	120,502,887	△ 406,255
住宅貸付金	0	40,000	△ 40,000
破産更生債権等	6,379,357	6,460,138	△ 80,781
貸倒引当金	△ 6,379,357	△ 6,460,138	80,781
その他の固定資産合計	2,224,463,621	2,234,252,316	△ 9,788,695
固定資産合計	2,224,463,621	2,234,252,316	△ 9,788,695
資産合計	6,566,395,175	6,314,405,798	251,989,377
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	883,917,668	724,595,083	159,322,585
リース債務	6,546,301	11,751,210	△ 5,204,909
未払金	185,176,969	65,845,552	119,331,417
未払法人税等	3,278,200	696,400	2,581,800
未払消費税等	34,581,300	40,374,500	△ 5,793,200
前受金	43,051,983	124,798,309	△ 81,746,326
預り金	71,799,337	26,306,174	45,493,163
返品調整引当金	0	4,044,141	△ 4,044,141
賞与引当金	169,424,000	155,425,000	13,999,000
事業撤退損失引当金	0	42,293,293	△ 42,293,293
流動負債合計	1,397,775,758	1,196,129,662	201,646,096
2. 固定負債			
長期リース債務	8,068,345	14,614,646	△ 6,546,301
退職給付引当金	573,590,821	492,349,379	81,241,442
資産除去債務	64,426,679	64,126,397	300,282
固定負債合計	646,085,845	571,090,422	74,995,423
負債合計	2,043,861,603	1,767,220,084	276,641,519
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	4,522,533,572	4,547,185,714	△ 24,652,142
一般正味財産合計	4,522,533,572	4,547,185,714	△ 24,652,142
正味財産合計	4,522,533,572	4,547,185,714	△ 24,652,142
負債及び正味財産合計	6,566,395,175	6,314,405,798	251,989,377

正味財産増減計算書  
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位 円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	6,667,302,108	6,821,226,299	△ 153,924,191
雑収益	5,726,146	6,639,711	△ 913,565
受取利息	4,856,467	4,256,982	599,485
雑収益	869,679	2,382,729	△ 1,513,050
経常収益計	6,673,028,254	6,827,866,010	△ 154,837,756
(2) 経常費用			
事業費	6,092,688,242	6,119,629,057	△ 26,940,815
給料手当	2,130,782,679	2,038,506,028	92,276,651
臨時雇賃金	7,433,968	12,684,531	△ 5,250,563
退職給付費用	149,031,182	114,565,103	34,466,079
福利厚生費	387,604,618	395,995,099	△ 8,390,481
会議費	1,239,465	643,240	596,225
旅費交通費	54,089,062	35,150,291	18,938,771
通信運搬費	96,592,383	196,226,024	△ 99,633,641
減価償却費	18,757,900	3,808,994	14,948,906
消耗品費	11,213,685	14,854,195	△ 3,640,510
修繕費	111,926,528	74,837,243	37,089,285
印刷製本費	174,242,755	450,344,872	△ 276,102,117
光熱水料費	3,051,663	3,488,675	△ 437,012
賃借料	68,319,224	55,233,606	13,085,618
保険料	1,330,158	1,353,031	△ 22,873
租税公課	1,269,050	1,435,000	△ 165,950
委託費	882,279,823	700,076,544	182,203,279
編集制作費	1,857,918,122	1,756,236,161	101,681,961
材料費	63,961,682	65,215,811	△ 1,254,129
権利使用料	64,553,631	81,180,980	△ 16,627,349
保管料	10,898,883	14,086,202	△ 3,187,319
支払手数料	12,188,618	36,565,916	△ 24,377,298
販売促進費	1,542,570	3,998,390	△ 2,455,820
支払リース料	10,018,486	9,221,000	797,486
交際費	278,201	310,591	△ 32,390
周知広報費	5,635,157	16,519,228	△ 10,884,071
貸倒引当金繰入	△ 80,781	△ 14,518,590	14,437,809
事業撤退損失繰入	△ 34,590,701	42,293,293	△ 76,883,994
貸倒損失	0	8,584,762	△ 8,584,762
雑費	1,200,231	732,837	467,394

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	600,966,133	569,493,519	31,472,614
役員報酬	30,974,220	38,062,000	△ 7,087,780
給料手当	254,214,684	259,827,053	△ 5,612,369
臨時雇賃金	372,274	144,808	227,466
退職給付費用	35,984,910	31,243,091	4,741,819
福利厚生費	45,901,081	47,653,229	△ 1,752,148
会議費	2,850	0	2,850
旅費交通費	1,399,966	472,546	927,420
通信運搬費	6,731,292	5,020,736	1,710,556
減価償却費	20,072,118	23,234,003	△ 3,161,885
消耗品費	3,211,896	8,184,263	△ 4,972,367
修繕費	17,136,465	20,320,604	△ 3,184,139
印刷製本費	6,843,741	3,196,074	3,647,667
光熱水料費	1,068,135	3,328,858	△ 2,260,723
賃借料	58,333,895	63,545,663	△ 5,211,768
保険料	2,695,000	3,860,970	△ 1,165,970
租税公課	11,118,916	10,327,421	791,495
委託費	89,233,350	37,266,905	51,966,445
支払リース料	3,141,115	3,425,859	△ 284,744
交際費	448,175	359,270	88,905
周知広報費	662,652	943,975	△ 281,323
雑費	11,419,398	9,076,191	2,343,207
經常費用計	6,693,654,375	6,689,122,576	4,531,799
当期經常増減額	△ 20,626,121	138,743,434	△ 159,369,555
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
移転補償金	0	106,845,237	△ 106,845,237
經常外収益計	0	106,845,237	△ 106,845,237
(2) 經常外費用			
固定資産除売却損	0	11,561,147	△ 11,561,147
電話加入権除売却損	0	10,488,332	△ 10,488,332
移転関連費用	0	60,768,535	△ 60,768,535
經常外費用計	0	82,818,014	△ 82,818,014
当期經常外増減額	0	24,027,223	△ 24,027,223
税引前当期一般正味財産増減額	△ 20,626,121	162,770,657	△ 183,396,778
法人税、住民税及び事業税	4,026,021	696,400	3,329,621
当期一般正味財産増減額	△ 24,652,142	162,074,257	△ 186,726,399
一般正味財産期首残高	4,547,185,714	4,385,111,457	162,074,257
一般正味財産期末残高	4,522,533,572	4,547,185,714	△ 24,652,142
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	4,522,533,572	4,547,185,714	△ 24,652,142

**正味財産増減計算書内訳表**  
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位 円)

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引 等消去	合 計
	社会奉仕業務	放送の周知・普及、 視聴者サービス業務			
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
<b>1. 経常増減の部</b>					
(1) 経常収益					
事業収益	4,850,000	6,662,452,108		-	6,667,302,108
雑収益			5,726,146	-	5,726,146
受取利息			4,856,467	-	4,856,467
雑収益			869,679	-	869,679
経常収益計	4,850,000	6,662,452,108	5,726,146	-	6,673,028,254
(2) 経常費用					
事業費	81,474,843	6,011,213,399		-	6,092,688,242
給料手当	29,904,642	2,100,878,037		-	2,130,782,679
臨時雇賃金	0	7,433,968		-	7,433,968
退職給付費用	5,190,669	143,840,513		-	149,031,182
福利厚生費	5,306,119	382,298,499		-	387,604,618
会議費	5,886	1,233,579		-	1,239,465
旅費交通費	34,716	54,054,346		-	54,089,062
通信運搬費	7,095,523	89,496,860		-	96,592,383
減価償却費	0	18,757,900		-	18,757,900
消耗品費	0	11,213,685		-	11,213,685
修繕費	0	111,926,528		-	111,926,528
印刷製本費	13,759,619	160,483,136		-	174,242,755
光熱水料費	114,585	2,937,078		-	3,051,663
賃借料	3,750,449	64,568,775		-	68,319,224
保険料	0	1,330,158		-	1,330,158
租税公課	6,200	1,262,850		-	1,269,050
委託費	2,445,419	879,834,404		-	882,279,823
編集制作費	13,856,724	1,844,061,398		-	1,857,918,122
材料費	0	63,961,682		-	63,961,682
権利使用料	0	64,553,631		-	64,553,631
保管料	0	10,898,883		-	10,898,883
支払手数料	0	12,188,618		-	12,188,618
販売促進費	0	1,542,570		-	1,542,570
支払リース料	0	10,018,486		-	10,018,486
交際費	0	278,201		-	278,201
周知広報費	0	5,635,157		-	5,635,157
貸倒引当金繰入	0	△ 80,781		-	△ 80,781
貸倒損失	0	0		-	0
事業撤退損失繰入		△ 34,590,701		-	△ 34,590,701
雑費	4,292	1,195,939		-	1,200,231
管理費			600,966,133	-	600,966,133
役員報酬			30,974,220	-	30,974,220
給料手当			254,214,684	-	254,214,684
臨時雇賃金			372,274	-	372,274
退職給付費用			35,984,910	-	35,984,910
福利厚生費			45,901,081	-	45,901,081
会議費			2,850	-	2,850
旅費交通費			1,399,966	-	1,399,966
通信運搬費			6,731,292	-	6,731,292
減価償却費			20,072,118	-	20,072,118
消耗品費			3,211,896	-	3,211,896
修繕費			17,136,465	-	17,136,465
印刷製本費			6,843,741	-	6,843,741
光熱水料費			1,068,135	-	1,068,135
賃借料			58,333,895	-	58,333,895
保険料			2,695,000	-	2,695,000
租税公課			11,118,916	-	11,118,916
委託費			89,233,350	-	89,233,350
支払リース料			3,141,115	-	3,141,115
交際費			448,175	-	448,175
周知広報費			662,652	-	662,652
雑費			11,419,398	-	11,419,398
経常費用計	81,474,843	6,011,213,399	600,966,133	-	6,693,654,375
当期経常増減額	△ 76,624,843	651,238,709	△ 595,239,987	-	△ 20,626,121

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引 等消去	合 計
	社会奉仕業務	放送の周知・普及、 視聴者サービス業務			
2. 経常外増減の部					
（1）経常外収益				—	
経常外収益計	0	0	0	—	0
（2）経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	—	0
当期経常外増減額	0	0	0	—	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 76,624,843	651,238,709	△ 595,239,987	—	△ 20,626,121
法人税、住民税及び事業税			4,026,021	—	4,026,021
当期一般正味財産増減額	△ 76,624,843	651,238,709	△ 599,266,008	—	△ 24,652,142
一般正味財産期首残高					4,547,185,714
一般正味財産期末残高					4,522,533,572
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額					0
指定正味財産期首残高					0
指定正味財産期末残高					0
III 正味財産期末残高					4,522,533,572

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
- ①満期保有目的の債券・・・償却原価法（定額法）によっている。
- ②満期保有目的の債券以外の有価証券
- 市場価格のない株式等以外のもの・・・期末日の市場価格等に基づく時価法によっている。
- 市場価格のない株式等・・・総平均法による原価法によっている。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
- 商品及び原材料・・・最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
- 仕掛品及び貯蔵品・・・個別法による原価法
- (3) 固定資産の減価償却の方法
- 有形固定資産（リース資産を除く）・・・定率法、ただし1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用している。
- 無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法
- リース資産・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却費は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
- 賞与引当金・・・職員等に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- 退職給付引当金・・・職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上している。
- なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額及び年金財政計算上の数理債務の額に基づいて計算している。
- 貸倒引当金・・・売掛金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、破産更生債権等については、個別に回収の可能性を勘案し、回収不能見込み額を計上している。
- 返品調整引当金・・・刊行物の返品による損失に備えるため、返品実績を勘案した額を計上している。
- なお、引当額は事業収益から控除している。
- 事業撤退損失引当金・・・2021年度末でのNHKウィークリー『ステラ』の休刊にともない、返品による損失に備えるため、返品実績を勘案した額、および事業を撤退するにあたり、発生が見込まれる金額を計上している。
- (5) 税効果会計の適用について
- 税引前の当期一般正味財産増減額と法人税等の金額を合理的に期間対応させ、より適正な当期正味財産増減額を計上することを目的として税効果会計を適用している。

- (6) 消費税等の会計処理
- 消費税等の会計処理は、税抜方式によっている。

### (7) 資産除去債務

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

#### 1. 当該資産除去債務の概要

オフィスの賃貸借契約に付されている原状回復義務に関して、資産除去債務を計上している。

#### 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を各オフィスビルの残存耐用年数と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う利回りを使用して資産除去債務の金額を算定している。

オフィス名	残存耐用年数	割引率
世田谷ビジネススクエアタワー	21年	0.4916%
日本会館ビル	14年	0.2530%

#### 3. 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：円)

期首残高	64,126,398
有形固定資産の取得に伴う増加額	0
時の経過による調整額	300,281
期末残高	64,426,679

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	16,235,036	14,198,299	2,036,737
建物附属設備	109,658,334	10,223,350	99,434,984
機械	2,366,000	2,365,994	6
器具備品	66,753,710	31,036,660	35,717,050
ソフトウェア	46,627,872	14,408,527	32,219,345
合計	241,640,952	72,232,830	169,408,122

3. 保証債務等の偶発債務

該当はない。

4. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りである。

(単位：円)

科目	帳簿価額	時価	評価損益
流動資産			
三井住友ファイナンス&リース第18回	100,000,000	99,993,200	△ 6,800
リコーリース社債第33回	100,000,000	100,010,000	10,000
三菱UFJリース社債第63回	100,000,000	100,014,000	14,000
セブン銀行第13回	100,000,000	99,970,000	△ 30,000
九州電力第474回	100,000,000	100,050,000	50,000
小計	500,000,000	500,037,200	37,200
その他の固定資産			
ヤフー株式会社第11回無担保社債	100,000,000	99,650,000	△ 350,000
日本生命2019基金流動化株式会社第1回無担保社債	100,000,000	99,950,000	△ 50,000
日本生命2019基金流動化株式会社第1回無担保社債	100,000,000	99,950,000	△ 50,000
第38回 リコーリース5年債	100,000,000	99,951,000	△ 49,000
三菱UFJリース社債第75回	100,000,000	99,960,000	△ 40,000
ソフトバンク(株)5年債	100,000,000	100,030,000	30,000
第17回三井住友信託銀行5年債	100,000,000	99,610,000	△ 390,000
森ヒルズリート投資法人第20回5年債	100,000,000	99,650,000	△ 350,000
N T Tファイナンス無担保社債16回社債	100,000,000	100,110,000	110,000
第14回株式会社セブン&アイホールディング5年債	100,000,000	99,865,300	△ 134,700
オリックス銀行第1回5年債	100,000,000	99,400,000	△ 600,000
第7回三井住友海上火災保険株式会社5年債	100,000,000	99,464,900	△ 535,100
第3回野村ホールディングス株式会社5年債	100,000,000	98,500,000	△ 1,500,000
第138回三菱地所株式会社無担保社債	100,000,000	99,450,000	△ 550,000
第14回クボタ5年債	99,957,980	99,430,000	△ 527,980
第79回三井不動産株式会社無担保社債	100,000,000	99,873,900	△ 126,100
第38回ソニーグループ株式会社無担保社債	100,000,000	100,000,000	0
西日本高速道路株式会社73回社債	100,000,000	100,290,000	290,000
小計	1,799,957,980	1,795,135,100	△ 4,822,880
合計	2,299,957,980	2,295,172,300	△ 4,785,680

5. 関連当事者との取引の内容

属性	法人等の名称	法人等の住所	資産総額 (単位：千円)	事業の内容 又は職業	議決権の所有割合	関係内容	
						役員 の兼務等	事業上の 関係
支配法人	日本放送協会	東京都 渋谷区	1,272,047,123	放送業	—	1名	業務の 受託

※資産総額は2022年3月31日現在

取引の内容	取引金額 (単位：千円)	科目	期末残高 (単位：千円)
業務の受託・放送の周知・普及業務（視聴者の意向吸収・理解促進業務等）・視聴者サービス業務（NHK番組の関連業務の実施等）	5,311,753	売掛金	1,097,962

(注)

1. 上記金額のうち、取引金額には、消費税等は含まれていない。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
業務の受託については、市場価格及び総原価を勘案して当財団希望価格を提示し、価格交渉の上で価格を決定している。



## 6. 重要な後発事象

(吸収合併について)

当法人は2022年11月4日開催の理事会において、一般財団法人NHKインターナショナル、一般財団法人NHKエンジニアリングシステム、一般財団法人NHK放送研修センターを吸収合併することを決議及び、2022年12月2日開催の評議員会で特別決議し、2023年4月1日に本合併手続を完了致しました。

### 1. 合併の概要

(1) 合併当事法人の名称及びその事業内容

結合法人(吸収合併存続法人)

名称 一般財団法人NHKサービスセンター

事業の内容 公共メディアに関する広報・普及・視聴者リレーション業務  
教育・文化・福祉・防災等に関する社会貢献事業等

事業規模・概要	資産合計	6,566,395,175 円
	負債合計	2,043,861,603 円
	正味財産合計	4,522,533,572 円

被結合法人(吸収合併消滅法人)

名称 一般財団法人NHKインターナショナル

事業の内容 海外放送機関等への貢献事業企画・開発、NHKコンテンツの多言語版制作  
国際会議・イベント支援、映像素材の海外提供等

事業規模・概要	資産合計	1,703,043,286 円
	負債合計	181,288,834 円
	正味財産合計	1,521,754,452 円

名称 一般財団法人NHKエンジニアリングシステム

事業の内容 放送技術の利活用及び研究開発

事業規模・概要	資産合計	1,561,804,291 円
	負債合計	282,303,561 円
	正味財産合計	1,279,500,730 円

名称 一般財団法人NHK放送研修センター

事業の内容 研修事業、ことばコミュニケーション展開事業

事業規模・概要	資産合計	1,198,093,570 円
	負債合計	218,944,126 円
	正味財産合計	979,149,444 円

(2) 法人結合日 2023年4月1日

(3) 法人結合の法的形式

当法人を存続法人とし、一般財団法人NHKインターナショナル、一般財団法人NHKエンジニアリングシステム及び、一般財団法人NHK放送研修センターを消滅法人とする吸収合併方式。

(4) 結合後法人の名称

一般財団法人NHK財団

(5) 取引の目的を含む取引の概要

本合併の主たる目的は、より効果的に組織目的を達成するための規模拡大やガバナンス強化であり、4つの一般財団法人が合併することにより、それぞれの財団の専門性やノウハウを生かし、NHKグループの財団ならではの社会貢献事業の推進を使命とするとともに、合併による経営の効率化とコストの低減を目指します。  
なお対価の支払いや一方による支配の獲得を伴わず、合併前の組織がそれぞれ活動の継続性を保ちながら合併されております。

### 2. 実施した会計処理の概要

当法人の合併取引は、公益法人会計基準上の明確な規定がなく、関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に該当するものとして、以下の通り会計処理しております。

上記の1. 合併の概要(5)取引の目的を含む取引の概要の趣旨を踏まえ、消滅法人において当該吸収合併直前に付された適正な帳簿価額により計上する方法(修正持分プーリング法)に基づき処理しております。

7. その他

(退職給付関係)

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度及び企業年金制度を設けている。

(2) 退職給付債務及びその内訳

(単位：円)

①退職給付債務	△ 1,968,952,471
②年金資産	1,395,361,650
③退職給付引当金	△ 573,590,821

(3) 退職給付費用に関する事項

(単位：円)

①勤務費用	△ 185,016,092
②退職給付費用	△ 185,016,092

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額及び企業年金制度における年金財政計算上の数理債務を基礎に計算している。

(所有権移転外ファイナンス・リース取引関係)

リース資産の内容

その他固定資産

パソコンほかである。

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産の主な原因別の内訳

(単位：円)

繰延税金資産	
賞与引当金	58,603,761
未払社会保険料	9,142,482
未払事業所税	2,084,462
退職給付引当金	198,405,064
個別貸倒引当金	1,151,320
電話加入権	3,627,914
資産除去債務	22,285,186
その他	1,184,729
繰延税金資産小計	296,484,918
評価性引当額	△ 275,925,855
繰延税金資産合計	20,559,063
繰延税金負債	
建物付属設備 (資産除去債務)	20,559,063
繰延税金負債合計	20,559,063
繰延税金資産の純額	0

(2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位：円)

項目	非収益事業	収益事業	合計
税引前当期一般正味財産増減額 (A)	△ 76,624,674	55,998,553	△ 20,626,121
法人税、住民税及び事業税 (B)		4,026,021	4,026,021
法人税等調整額 (C)		0	0
当期一般正味財産増減額 (A)-(B)-(C)	△ 76,624,674	51,972,532	△ 24,652,142

## 附 属 明 細 書

### 1. 引当金の明細

(単位 円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	6,460,138			80,781	6,379,357
返品調整引当金	4,044,141		4,044,141		0
賞与引当金	155,425,000	169,424,000	155,425,000		169,424,000
事業撤退損失引当金	42,293,293		7,702,592	34,590,701	0
退職給付引当金	492,349,379	179,411,292	69,701,700	28,468,150	573,590,821

(注)

1. 貸倒引当金の当期減少額（その他）は、対象となる債権の回収による取崩額であります。
2. 退職給付引当金の目的使用以外の理由による減少額は、年金掛金の拠出額であります。

# 独立監査人の監査報告書

2023年5月29日

一般財団法人 NHK財団

理事長 黄木 紀之 殿

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 加藤 秀 満  
業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第199条において準用する同法第124条第2項第1号の規定に基づく監査に準じて、一般財団法人NHK財団（旧一般財団法人NHKサービスセンター）の2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインII-4の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 強調事項

重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、法人は2023年4月1日付で一般財団法人NHKインターナショナル、一般財団法人NHKエンジニアリングシステム、一般財団法人NHK放送研修センターを消滅法人とする吸収合併を完了した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## 財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上